

(活動報告)MPC 草木染めの会

草木染めとエコロジー

有田有紀

あっという間に秋になっていました。今年は「新型コロナウイルス」の影響で草木染めの会も随分と長い間おやすみになっています。毎月の定例会で季節ごとの染料で生地を染めては会員同士で染め上がりを楽しみにしていたひと時もなくなり寂しい気持ちです。

そんな日々に新しい生活様式というものが社会で提言され、一時は不足したマスクも手作り布マスクの供給の助けもあり皆が予防をすることができるようになりました。手づくりといえば草木染めがまさにそうですが、今年は草木染めマスクも新聞やインターネットでよく見かけます。私も暮らしている八代市のタデ藍や桜の小枝、い草で染めたダブルガーゼを使ってミシン作業をして初めてのマスクを手作りしました。

もともと草木染めの染材料は草根木皮など漢方薬との共通のものが多く、防虫、殺菌の役目をしてきたと先人の本には記してあります。

どれほど的人がそのことを知るかは定かではありませんが、自然の恵みに魅かれてその美しい色を抽出してみたり、薬効を望んで身につけたりと今までに生存本能から草木染めを通して自然を崇めているようにも思えます。

だとすれば、今回の新型コロナウイルスのような感染症の増加や洪水の増加などの自然環境破壊を起因とするような現象が、自然を慈しむ気持ちを手助けにしてなんとか収まつてほしいと切に願うばかりです。その一助になればと想いながら、今年は自宅で一人きりで作った藍の生葉で摺り染めをした木綿のエコバッグを持って買い物に出かけています。

